

◇消防からのお知らせ◇

住宅編～ストーブによる火災にご注意下さい!!

冬本番を迎え、多くの家庭ではストーブなどの暖房機器を使用されていることと思います。火災を起こさないよう、以下のことに注意するよう心掛けましょう。

①ストーブの近くに燃えやすい物を置かない!

ストーブの近くにカーテン、洗濯物などの燃えやすいものを置かないでください。火災になるおそれがあります。またスプレー缶などを近くに放置していると、過熱され缶の内圧が上昇して破裂し、爆発するおそれがあります。



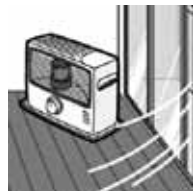
②給油時は必ず火を消しましょう!

石油ストーブに火をつけたまま給油すると、こぼれた灯油に着火するおそれがあるので、給油をする時は必ず火を消し、消火を確認してから行いましょう。



③換気を実施しましょう!

ポータブル石油ストーブは、室内の空気を使って燃焼するため、換気が不十分だと室内の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒にいたるおそれがあります。1時間に1～2回(1～2分)程度換気を行ってください。



④外出時や就寝前には火を消しましょう!

寝るときや外出するときは、必ず消火してください。不完全燃焼や異常燃焼など、予期せぬ事故が発生するおそれがあります。また、消火の際は確実に火が消えていることを確認してください。



車編～車での外出にはご注意ください!!

暴風雪や地吹雪が発生している際は、視界すべてが真っ白になる「ホワイトアウト」と呼ばれる現象が起こり、事故や遭難の危険性があります。

なお、車内で救助を待つ時は、以下のことに注意するよう心掛けましょう。

①原則エンジンは停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを停止することが大切です。防寒着、毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。



②一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれた時にエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。



③エンジンをかけるときは!

防寒等でやむを得ず、エンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。



④窓をあけていても絶対安全とは言えない

風向きにより窓を開けていても排気ガスの侵入により、窓を閉めている時よりも一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。



火事と救急救助は119番

◎問い合わせ先 留萌消防組合小平消防署 (☎56-2221)、鬼鹿支署 (☎57-1253)